



西東京の国立三大学が集結。 それぞれの専門分野を活かしながら グローバルな問題に立ち向かう。

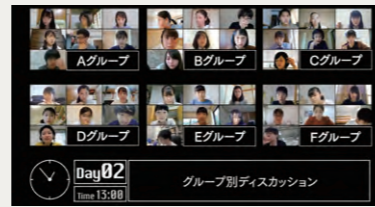
高校生対象

協働高大接続教育プログラム

西東京の国立三大学が共同して立ち上げた協働高大接続教育プログラムでは、それぞれの大学の専門分野の教育と、文理協働の取り組みを理解するための、高校生グローバルスクールを開講しています。現代のグローバル社会が抱えるさまざまな課題を解決するためには、文系や理系といった学問の枠組みを越えた発想が必要です。文系を志望する人、理系を志望する人、そしてもちろんまだ分野を決めていない人、いずれの皆さんも歓迎します。さまざまな志を持った人たちと一緒に、グローバル社会が抱える課題の解決策を考えます。

高校生グローバルスクール

2020年9月20日(日)・21日(月・祝)に2020年度夏季「高校生グローバルスクール」を開講しました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、オンラインでの実施となりましたが、全国各地からたくさんの方の高校生に参加いただき、SDGsの17の目標の1つ「Good Health and Well-being(すべての人に健康と福祉を)」をテーマに、三大学それぞれの講師による講義や演習を経て、ディスカッションをして課題解決への道筋の探求に取り組みました。



これからの社会を作っていくのは、私たちなのだ実感

Oさん(青森県/高校1年生)

私は大学に入ったら工学を学ぼうと思っています。これから第5次産業革命が来て、そこでサステナブルな社会が実現される、という話を聞いたことがあります。サステナブルな社会というのは、循環型社会、持続可能な社会という事なのですが、そういう社会を作るために技術の面でも貢献していけるようになったらいいなと思います。高校生グローバルスクールに参加したのは、私はもともと高校に入ったら色々な事に挑戦したいと思っていました。そんなときに先生から、こういう取り組みがあるよ、と教えていただいて、面白そうだなと思った事がきっかけでした。文理協働という言葉は、聞いたことはあったのですが、ちゃんとした意味は分かっていませんでした。でも、この高校生グローバルスクールに参加したことで、文系、理系とか区別なく協力して一つになって、これからの社会を築いていかないと駄目なのだとこのことを知ることが出来ました。

今回、実感したことは、未来を作っていくのは、私たちなのだ、ということです。今後の社会は、少子高齢化とか、お金が無くなっていくとか、色々な問題がある中で、私たちはそういう問題を解決するためにも、これから頑張ってみながら協力して、文理協働でいかないと駄目なのだと思います。

自分には想像もつかない自分に出会うことができました

Sさん(愛媛県/高校2年生)

参加しようと思った理由は、志望校である大学が参加していることはもちろん、高校でSDGsの活動をしていたこともあり、グローバルという言葉に惹かれたからでした。文理協働という言葉は聞いたことはありましたが、その言葉の重要性を実感したことはありませんでした。文系の私と理系とは壁があると思っていたのです。しかし、グローバルスクールに参加して、その考えは180度変わりました。感染症1つとっても医学ばかりが重要であると考えていましたが、社会学、政治学、経済学、教育学など、文理の垣根を越えた様々な学問から関わっていく必要があることを知って、とても大きな学びになりました。一番印象に残っていることは、一緒に学んだ高校生たちです。初対面で積極的にみんなをまとめたり、自分の意見を伝えたり、質問したりする姿を見て、自分も受け身にならないよという意識が強まりました。また、支えてくださった先生方も、分からないところは分かるまで教えていただき、私たちに新しい可能性を与えてくれました。大学生のファシリテーターさんたちは、今の私には難しいと思う授業も、楽しい、面白いと気付かせてくれ、私の大きなモチベーションとなりました。とにかく発見の連続で、2日前の自分には想像もつかない自分に出会うことができました。

現代のグローバル社会が抱えるさまざまな課題を解決するためには、これまでの人文社会科学や理工学と呼ばれる枠組みを越えた分野横断型の発想が求められています。西東京地区にある東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学の国立三大学は近接して立地する条件を活用して、人文社会科学・理工学・農学のそれぞれの専門性と同時に、分野を横断して協働の視点を持つ実践型グローバル人材の養成プログラムを立ち上げました。このプログラムでは高校生の皆さんから学部・大学院の学生の皆さんに人文社会科学や理工学の枠組みを越えて協働する新しい教育を提供します。

大学生対象

協働共通・専門教育プログラム

世界が抱えるさまざまな複合的な課題の解決には、専門性にしっかりと軸足を置きながら、文系や理系の枠組みを越えて互いに協働できる能力が求められます。西東京の国立三大学では、それぞれの専門教育に加えて、専門分野を異にする三大学の学生の皆さんと一緒にグループを作って、課題の解決に取り組む授業科目を開講しました。さらに授業科目の英語化をはじめとした、さまざまなグローバル人材育成のための取り組みを進めています。協働共通・専門教育プログラムに関連する主な授業科目や活動を紹介します。



三大学協働基礎ゼミ

1~2年生を対象に10名程度の三大学混成の学生チームで、それぞれの大学の先端的な研究を体験するゼミです。ゼミ参加後には学生チームが集合して合同発表会を開きます。

三大学学生のための英語で授業を行う科目

それぞれの大学では英語で開講されている授業科目も多くありますが、それらの授業科目に加えて三大学の専門分野を異にする学生も対象とする入門的な授業を揃えました。

三大学合同合同コロキウム

三大学の卒業研究や大学院での研究をしている学生が、文系理系を越えて互いの研究を発表し議論をするコロキウムです。このコロキウムの運営は学生が中心となって行っています。

テーマ	開講大学・担当教員
未知の言語を解明しよう。	東京外国語大学 野元 裕樹
材料の断面形状と曲がりやすさの関係を実験して調べよう。	東京農工大学 安藤 恵介
正確かつ正確に英語を読むコツを伝授する!	東京農工大学 畠山 雄二
ロボットに臭跡をたどらせよう。	東京農工大学 石田 寛
これからの光通信とは: 太陽光電池とLEDを使って回路実験	電気通信大学 奥野 剛史
「実現したいこと」に必要な制御システムを考えよう!	電気通信大学 定本 知徳